

「独歩の森」を未来へつなぐ

—雑木林の昔・今・これから—

「独歩の森」は、市内に残された武蔵野の雑木林として貴重な存在です。市民の財産であるこの森を、みんなの力でより良い状態で未来につないでいくためにこのパンフレットをつくりました。ぜひ、手にとってお読みください。

はじめに ～「独歩の森」とは？～

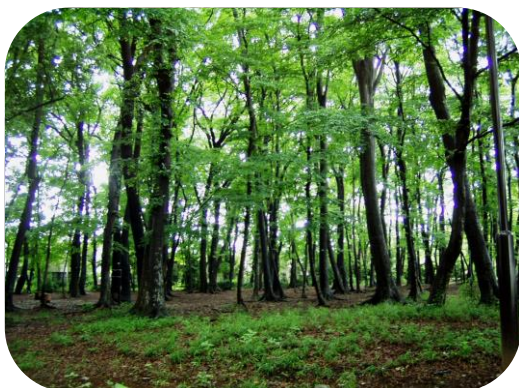
「独歩の森」は、「武蔵野市立境山野緑地」（さかいさんやりよち、武蔵野市境 4-5）の中にあります。江戸時代から農家の仕事と暮らしを支えてきた雑木林です。森を保全し、未来に残すため、平成 19 年に武蔵野市が取得し市有地になりました（面積は約 5,000 m²）。

名前の由来・・・「独歩の森」という名前は、明治時代の文豪である国木田独歩が、著書『武蔵野』の中でこのあたり一帯の描写をしたことから、そのように呼ばれています。

希少性・・・かつて、武蔵野台地は雑木林に広くおおわれていました。それは武蔵野の雑木林と呼ばれ、武蔵野を特徴づける独特の風景ともいえるものでしたが、大規模な都市開発によって次々に消えていきました。その結果、ある程度まとまった面積が残された雑木林として、「独歩の森」は貴重な存在となりました。

「遺産」的価値・・・私たちにとって「独歩の森」は、自然的な「遺産」であるとともに、かつての人々の暮らしを偲ぶことができる文化的な「遺産」でもあります。ユネスコの遺産登録などでも話題になるように、このような「遺産」を守り、受け継いでいくためには適切な管理が欠かせません。「独歩の森」についても全く同様です。雑木林に適した管理を計画し実行していくことではじめて、価値ある「遺産」として後世に伝えることができます。

100年後へ・・・私たち「武蔵野の森を育てる会」は、多くの方々とともに「独歩の森」を理解・活用し、よりよい姿で未来に残していくために、この資料を作成しました。ぜひ、ご一緒に考えていきましょう。100年後の「独歩の森」を思い描きながら、それぞれの可能な範囲で・・・。



独歩の森（境山野緑地南側雑木林）



← ウグイスカグラ

ネキトンボ →



1. 「独歩の森」の今

問：「独歩の森」って、ほとんど人が行かない所でしょう？

答：いえいえ、幼い子からお年寄りまで様々な人が来ています！

くつろぎの場として…季節を感じながら体操や散歩をする人がいます。犬を散歩させる人にとっては、利用しやすいコースになっているようです。子どもたちは、立木や落ちている枝などを利用して、自由な発想で思い切り遊んでいます。

行楽の場として…土曜・日曜ともなると、ハイカーの目指すポイントです。ゴールデンウィークや秋の紅葉シーズンは、とくに賑わいます。植物の前で足を止める中高年のカップルや、列になって歩き、立ち止まって説明を聞く団体の利用も少なくありません。

保育の場として…近くの保育園の子どもたちが先生に連れられて、毎日のようにやって来ます。木の実を拾い集めたり、お友だち同士で手をつないで歩き回ったりと、様々な過ごし方です。0歳児から5歳児までの幼い子どもたちにとって、自然と触れ合うことのできる貴重な空間です。

教育の場として…近くにある武蔵野市立第二小学校をはじめ、諸団体の環境教育の場になっています。ここで育った子どもたちは、雑木林を身近に感じ、雑木林に関する知識も豊富です。武蔵野の森を育てる会は、年間数回、講師として授業に協力しています。

保全活動を通して人々が出会う場として…武蔵野の森を育てる会は緑ボランティア団体として武蔵野市に登録し、「独歩の森」の保全活動を行っています。毎月2回の定例作業には、小さなお子さんから学生やシニアまで30~40人が集まり、みんなで和気あいあいと森のお手入れを楽しんでいます。市内の大学のボランティアサークル、都立高校の授業「奉仕」（奉仕体験活動）など、さまざまな活動の場として利用されています。これらの活動を通して、世代や地域をこえた人々のネットワークが生まれてきました。



冬の笹刈り作業



小学校の授業風景

2. 雑木林としての「独歩の森」

問：雑木林のあったところに人々が移り住んできたのですか？

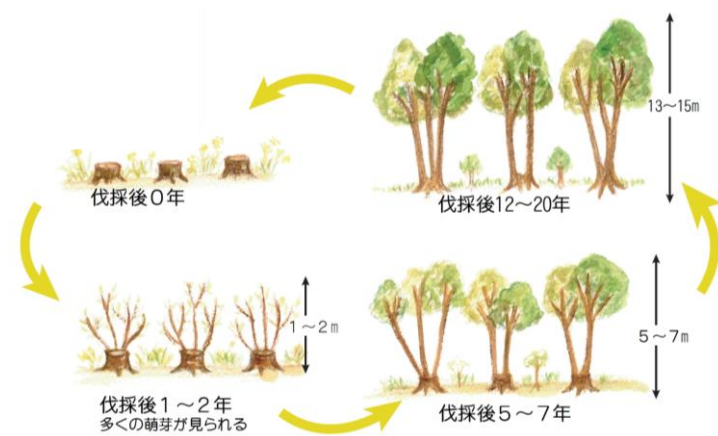
答：その逆です！人々が暮らすために雑木林をつくったのです！

武蔵野台地は中世までススキ野原でしたが、江戸時代中期の新田開発に伴いコナラやクヌギを中心とする雑木林（森）がつけられました。落ち葉を堆肥（腐葉土）として利用するとともに、木を伐って薪や炭として燃料にしました。このように、**農業利用や生活燃料の供給源**として、木を植えて雑木林をつくったのです。これが**武蔵野の雑木林**と呼ばれるものです。

雑木林の木は定期的（7～20年ごと）に燃料として伐採され、そのあと切株から出る萌芽を育てるという循環で維持されていました。これを**萌芽更新**といいます。萌芽が育つためには十分な光が必要なため、予め決めた範囲の木をすべて伐採していました。

毎年場所を変えて順番に伐っていたので、伐った直後の草原のように明るい部分から、木が大きくなって薄暗い部分まで、様々な年齢の部分からなる多様な環境がモザイク状になっていました。こうした多様な環境に適応して、さまざまな生物が生息していたのです。

しかし、現在では開発により面積が激減し、わずかに残された雑木林が「まちの中の森」として点在しています。「独歩の森」も、その一つです。



萌芽更新のサイクル

資料：環境省『里地里山保全再生計画作成の手引き』（平成20年）より転載

3. 「まちの中の森」のこれから

問：「まちの中の森」は、どのように管理していけばいいの？

答：近隣の市では、雑木林の再生をすでに試みています！

まちの中に取り残されたように点在する現在の雑木林は、昔のように腐葉土や炭・薪をとる必要がなくなっていることから、手入れがなされないままに放置される傾向にあります。そして、地面が人に踏みしめられて固くなっていることから下草も生えず、自然状態が悪化しています。さらに、大木化による枯れ枝の落下や倒木の危険、大量の落ち葉による周辺住民への悪影響なども生じています。これらの問題は「独歩の森」にも共通のことであり、適切な対策が求められます。

それでは、どうしたらいいのでしょうか。手入れといっても、街路樹や通常の公園にある木のように定期的な剪定をすればいいかといえ、それでは雑木林としての長を殺すことになってしまいます。まちの中に残された雑木林にふさわしい方法が求められているのです。

近隣の各市では、市民団体と連携しながらそのような方法を試みています。いずれの地域でも雑木林(森)の中の一定面積を伐採し、切株からの萌芽や種子からの発芽(実生)を育てて若返り(再生)に成功し、消えかけていた野草が復活して野鳥や昆虫も戻ってきました。再生した雑木林は、市民が自然に親しみ、互いに交流し、人と自然が共生する新しい空間としてよみがえっています。

下記に三つの事例を紹介し、これらの地域の経験からヒントを得て、「独歩の森」を含む「まちの中の森」をより良い状態で未来の子どもたちに引き継ぐ方法を考えていきましょう。

東京都清瀬市

平成 8 年・9 年・13 年・24 年・25 年、東京都あるいは清瀬市が市内合計 5 か所の雑木林を対象に、いずれも全面積の一部 (1,500~3,000 m²) を伐採して萌芽更新を試みました。平成 8 年・9 年・13 年に伐採した林の育成は市民団体「清瀬の自然を守る会」等が行い、すでに若い雑木林として再生しています。同市では、今後も雑木林の再生を続けていく方針です。

東京都福生市

平成 14 年に市報で会員を募り、市民団体「福生萌芽会」が発足しました。平成 16 年、同会が市内の「文化の森」のうち約 2,200 m² を伐採しました。今では、萌芽や実生で若返った雑木林の木が高さ 10m、幹回り 50 cm を超えています。同会は、再生した雑木林で椎茸栽培や芋煮会なども行い、「平成版里山ライフ」と銘打って都市における「人と自然の共生」を追究しています。

東京都国分寺市

市民団体「エックス山等市民協議会」と市が協定を結び、両者の協働事業として西恋ヶ窪緑地(通称エックス山)の再生に取り組んでいます。平成 21 年に 450 m²、22 年に 1,000 m² を伐採し、現在は雑木林の再生の途上にあります(萌芽や実生がすでに 3~4m まで育っています)。伐採後は光が入ることによって、かつての雑木林に存在していた多様な植物が復活しました。

これらの地域の実践を紹介し、雑木林の再生の考え方をまとめた冊子『まちの中に森がある～「独歩の森」を育てる楽しみ～』(A4 判 38 頁)を頒布しています。武蔵野の森を育てる会までお問い合わせください。

【独歩の森(境山野緑地)へのアクセス】 ⇨

JR 中央線武蔵境駅北口より徒歩 10 分。同駅北口からスキップ通りを北へ直進、はんこ屋を左折して 200m 先にあります。西武バス、関東バスの停留所「桜橋」からは徒歩 5 分。(住所:武蔵野市境 4-5)

武蔵野の森を育てる会

Eメール: info.mnomori@gmail.com

HP: http://mnomori.web.fc2.com/

